

株式会社中電シーティーアイ

認定資格取得によるスキル向上が 運用の効率化と顧客からの信頼獲得に



中部電力グループのITシステムを、設計から開発、運用・保守に至るまで一貫して支える株式会社中電シーティーアイ（以下、中電シーティーアイ）。同社はシステム標準化を進める取組みの一環として、Oracle Databaseのテクノロジーに特化した専任チームを設置。メンバー全員がORACLE MASTER Platinum Oracle Database 11gを取得し、スキル向上による運用・保守の効率化と顧客からの信頼獲得につなげている。

標準化の一環として オラクルのデータベースを採用

中電シーティーアイは、中部電力株式会社（以下、中部電力）をはじめとする中部電力グループ各社のITにおける取組みを支援するIT企業だ。とくに中部電力のシステムに関しては、要件定義後のシステムの設計から構築、運用・保守に至る開発ライフサイクルを一貫して担当。同社の経営効率化に加え、電力の安定供給をITの側から支えることで、地域社会への貢献を果たしている。

「中部電力では、サーバーやOS、ミドルウェアなどのインフラを含むシステムの構築・保守の迅速化やコスト削減のため、内製化率の向上に向けた取組みを進めています。当社はそうした

取組みを支えるため、システム統合や仮想化などを見据えつつ、汎用のハードウェアとソフトウェアで構成した“標準サーバー”への移行を積極的に推進してきました」と同社 取締役 電力業務システム事業部長の揖斐 芳樹氏は語る。

従来同社では、構築するシステムごとに、ハードウェアやソフトウェア、購入先を選定していた。その結果、同じ事業部でもさまざまな企業の製品が混在することになり、運用や保守、障害時の対応などのプロセスが煩雑化していた。

「そこで標準化の一環として、2009年からシステムの基盤となるソフトウェアの絞込みを実施しました。データベースに関しては、これまで多くのシステムで稼動実績があるOracle Database

を、中部電力グループの標準データベースとして選定しました。オラクルとの戦略的な契約によって調達ルートを一本化し、保守の迅速化とコスト削減を期待したわけです」と揖斐氏は説明する。

運用の効率化のため 専任の技術者チームを設置

Oracle Databaseを基盤にしてシステムの標準化を進め、保守作業や障害対応の迅速化を実現する。この取組みで重要なのが、導入や保守、運用の窓口となる中電シーティーアイが、オラクル製品における高度なスキルを有していることだ。そこで同社は、Oracle Databaseの利用全般をサポートする専任組織として、電力業務システム事業部 基盤システム部内にデータベースア



株式会社中電シーティーアイ
取締役
電力業務システム事業部長
揖斐 芳樹 氏



株式会社中電シーティーアイ
電力業務システム事業部
基盤システム部
標準化グループリーダー
兼 新技術標準化チームリーダー
山崎 康一 氏

ドバイザリチームを設置した。

「このチームのおもな役割は、Oracle Databaseに関する問合せや障害への対応、新機能の評価やその利用方法の標準化、開発部隊への提案などです。将来的には実際のシステム構築プロジェクトに参画し、データベースの物理設計を支援する役割も期待しています」と紹介するのは、同事業部 基盤システム部 標準化グループリーダー 兼 新技術標準化チームリーダーの山崎 康一氏だ。

現在データベースアドバイザリチームは3人のメンバーで構成されているが、チーム設立に向け、役割にふさわしいOracle Database専門技術者としてのスキルをどのように向上させ、顧客である中部電力内のIT関連部門やユーザー部門からの信頼をどのように得ていくかが課題だった。「その施策として選んだのが、Oracle Databaseに関する認定資格の最高峰、ORACLE MASTER Platinum Oracle Database 11gを取得することでした」と山崎氏は振り返る。

認定資格取得が 顧客からの信頼獲得につながる

メンバーは業務と並行して資格取得に取り組み、全員がチーム参加から約2年以内というきわめて短い期間で資格を取得した。日本オラクルのコンサルティングチームもチーム立上げ時からサポートに加わり、Oracle Databaseのアーキテクチャや各種機能を解説した社内

向けドキュメントを整備するなど、実践的な学習方法を取り入れたことも功を奏したという。

「メンバー全員が資格を取得できたことは、中部電力からも高く評価されました。これがデータベース運用において、お客様に大きな安心感をもっていただくことにもつながっています」と山崎氏。

資格取得の過程でメンバーが習得したOracle Databaseに関する幅広い知識と高度なスキルは、システム運用の現場でも大いに活かされている。「たとえばデータベースのバックアップや性能管理などは、標準化の観点からほかのツールをできるだけ使わず、Oracle Databaseの機能を最大限に利用する方向で取り組んでいます。現場では、従来と異なる方式の採用に不安を覚えるものですが、データベースアドバイザリチームによる試行プロジェクトへの支援、その他啓蒙活動によって、現在では標準実装として定着しています」と山崎氏はその成果の一端を紹介する。

そのほか、中電シーティーアイと中部電力では、インフラ構築とアプリケーションの要となるOracle Database技術者のスキル向上を目指し、専用の研修コースを共同開催している。このカリキュラムに関しても、チーム

のメンバーとオラクルが共同で設計にあたっている。「Oracle Databaseに関する技術をリードするデータベースアドバイザリチームには、中部電力におけるシステム内製化や将来のクラウド導入を進める原動力の1つとして、大きな期待が寄せられています。メンバーだけでなく、技術者のスキル向上の手段の1つとして、今後もOracle Universityを活用していきたいと考えています」と揖斐氏は語る。

PROFILE

株式会社中電シーティーアイ

1978年設立の中電コンピューターサービス株式会社、1989年設立の株式会社コンピュータ・テクノロジー・インテグレイタ（CTI）が合併して2003年に設立された、中部電力グループ唯一のIT企業。電力の流通、販売などといった業務を担う情報システムの設計・開発、運用・保守を一貫して主導し、その技術力と業務知識によって中部電力グループ各社のビジネスをITによって支えている。



データベースアドバイザリチームのメンバー
右から花井 裕二氏、旗崎 敬之氏、内藤 久仁春氏

多くのデータベース技術者との交流が切磋琢磨の機会に

株式会社中電シーティーアイ
電力業務システム事業部
基盤システム部 標準化グループ
データベースアドバイザリ
チームリーダー
花井 裕二氏

ORACLE MASTER Platinum Oracle Database 11gの資格取得は、指標として示すことが難しい技術的なスキルをお客様に明示できるため、大いに役立っています。また、資格取得を機に技術者としての視野が広がりました。オラクルが認定技術者を対象に開催しているイベントORACLE MASTER Platinum

Clubや、さまざまなセミナーに参加することで、同じ電力・エネルギー業界をはじめとする多種多様な業界のデータベース技術者と接する機会ができました。業務での課題や悩み、その解決策といった情報の交換を通じて、スキル向上を目指して互いに切磋琢磨することも大きなメリットです。

日本オラクル株式会社

〒107-0061 東京都港区北青山2-5-8 オラクル青山センター
oracle.com/jp

オラクルユニバーシティ
お問い合わせ窓口

ORACLE
UNIVERSITY

TEL 0120-155-092

URL <http://www.oracle.com/jp/education/>